

トビウオ資源開発調査

本 永 文 彦

1. 目的および内容

八重山～沖縄島海域に分布するとびうお類の魚種組成や出現時期、回遊を明らかにし、本種の基礎的な生物情報を得る。

なお、八重山、糸満、伊江島の各漁協職員の方々には、標本魚の購入に便宜を図って頂いた。また、八重山支場の久貝一成氏、島尻広昭氏、海老沢明彦氏には標本魚の送付で大変お世話になっている。さらに、琉球大学理学部の吉野哲夫氏にはとびうお類の分類で多くの指導を受けた。これらの方々に厚くお礼申し上げます。

2. 方 法

- ①漁獲実態 八重山漁協と糸満、伊江島の3漁協について、漁獲量統計資料を収集する。
- ②市場調査 3漁協で水揚げされるとびうお類を3～5月の間に月2～3回の頻度で購入し、地域別魚種組成や魚種別出現時期、漁場の季節変化を明らかにする。
- ③生物測定 測定項目は体長、体重、生殖腺重量を測定し、性別と熟度を調べた。また、年齢査定のために耳石を1調査あたり10尾程度について採取し保存する。

3. 結果の要約

- ①漁獲実態 とびうお類は漁獲のほとんどが本土市場へ空輸されるため、伝票は販売された日付で整理されており、漁獲日毎の記録は見当たらない。現在、販売伝票から日別の漁獲量統計を作成している。
- ②市場調査 平成2～4年度の調査を通じて、どの年もオオメナツトビの漁獲が最も多かった。漁期の経過に伴い魚種組成が若干変化するようだが、魚種毎の出現量の季節変化を求めるには、漁獲量と魚種組成の季節変化に関する資料がともにそろそろ必要があり、現在取りまとめ中である。
- ③生物測定 漁獲された魚は成熟あるいは産卵後の個体で占められていた。得られた生物測定結果から、魚種毎の生殖腺熟度の季節変化を解析している。今後、資料の蓄積を待って別途報告する。